

平成21年3月期業績レビュー と 平成22年3月期の見通し

平成21年7月10日

株式会社 昭和システムエンジニアリング

目 次

平成21年3月期業績レビュー

1. 経営環境(平成21年3月期)	4
2. 業績概要	5
3. 業績推移	6
4. 事業別業績推移(ソフトウェア開発事業)	7
5. 事業別業績推移(入力データ作成事業)	8
6. 事業別業績推移(受託計算事業)	9
7. 業種別売上比率(全社)	10
8. 貸借対照表	11
9. キャッシュフローの推移	12
10. 経営指標の推移	13

平成22年3月期の見通し

11. 経営環境(平成22年3月期)	15
12. 平成22年3月期の経営方針	16
13. 業績見通し	17
14. 業績推移見通し	18

平成21年3月期業績レビュー

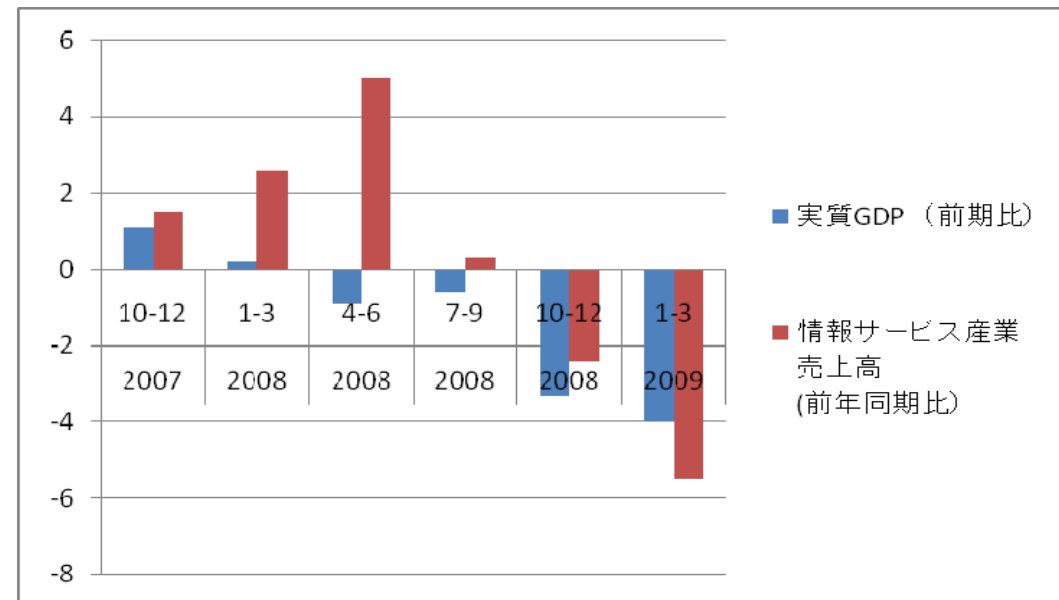
1. 経営環境(平成21年3月期)

わが国経済は、世界経済の急激な悪化の影響を受け、日を追うごとに厳しさを増す中で推移しました。

第三四半期以降、顧客企業のIT投資抑制傾向が全産業分野で顕在化しました。

安定的成長を続けてきた情報サービス産業も平成20年10-12月期以降、2四半期連続でマイナス成長となりました。

実質GDPと情報サービス産業(四半期)



出典

・実質GDP:内閣府

・情報サービス産業売上高:経済産業省特定サービス産業動態統計調査

2. 業績概要

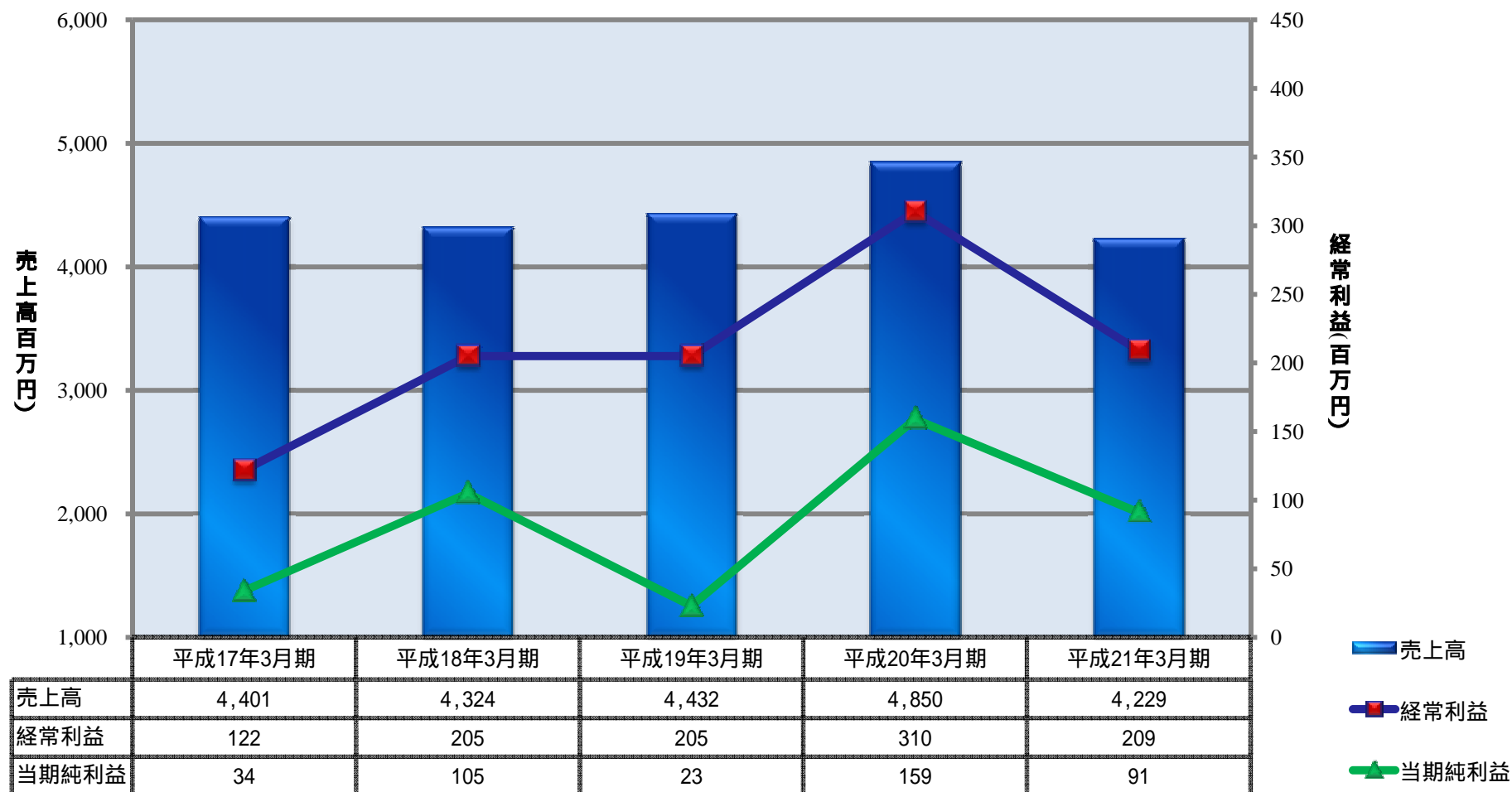
《 売上高 》 4,229百万円 (前期比 12.8%)

《 経常利益 》 209百万円 (前期比 32.5%)

《 当期純利益 》 91百万円 (前期比 42.5%)

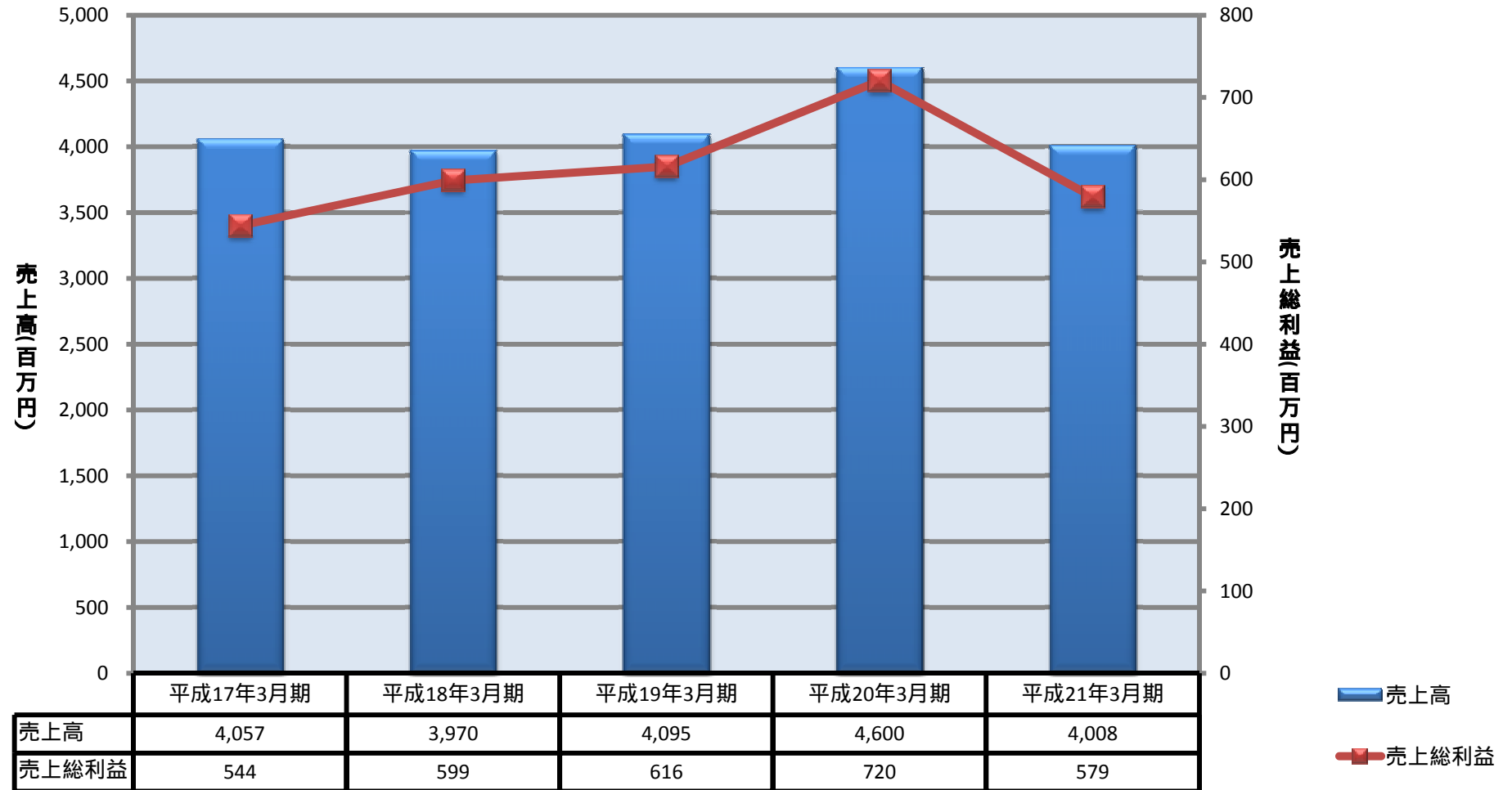
顧客企業のIT投資抑制傾向が全産業分野で顕在化し、減収となりました。

3. 業績推移



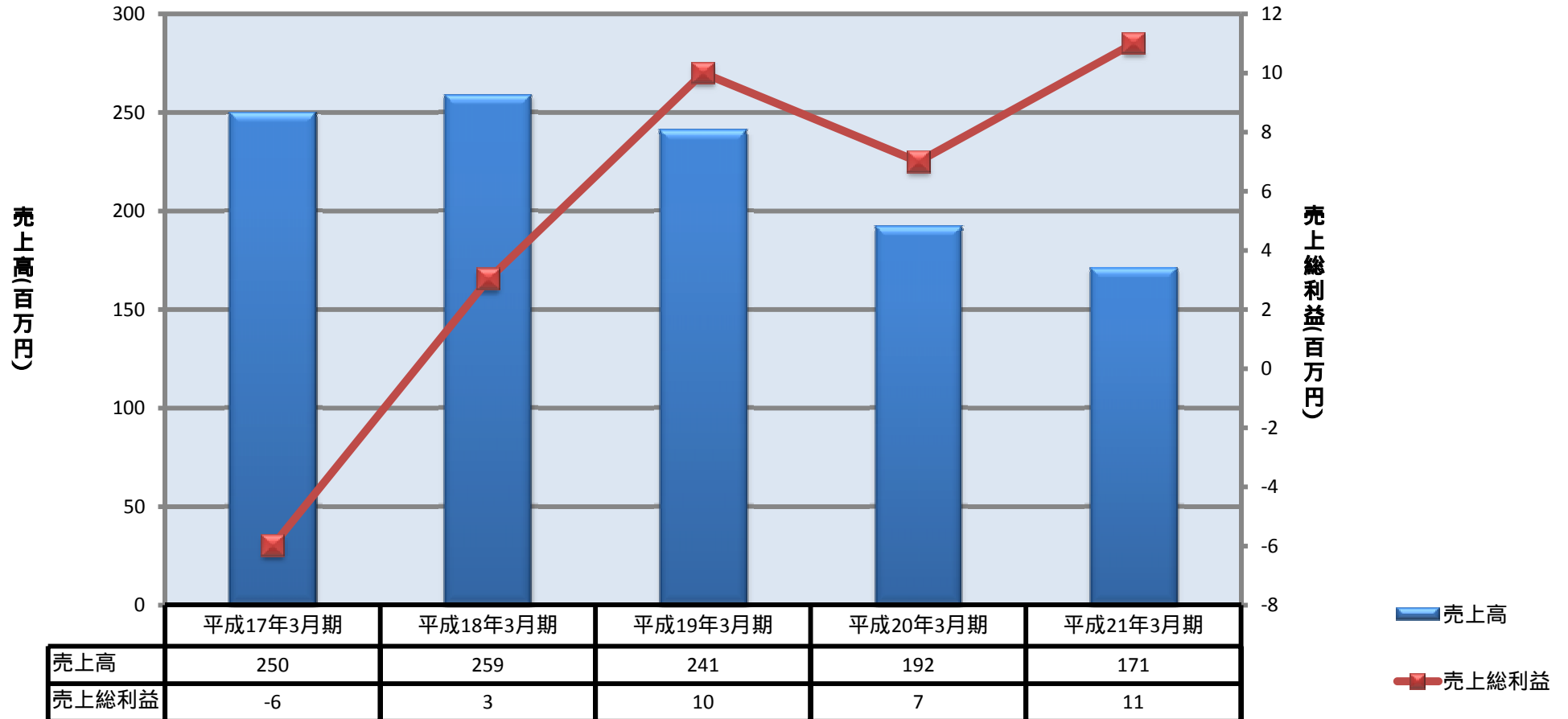
厳しい経済環境の中、新規顧客獲得等戦略的成果はありましたが顧客のIT投資抑制の影響を補うには至りませんでした。

4. 事業別業績推移 (ソフトウェア開発事業)



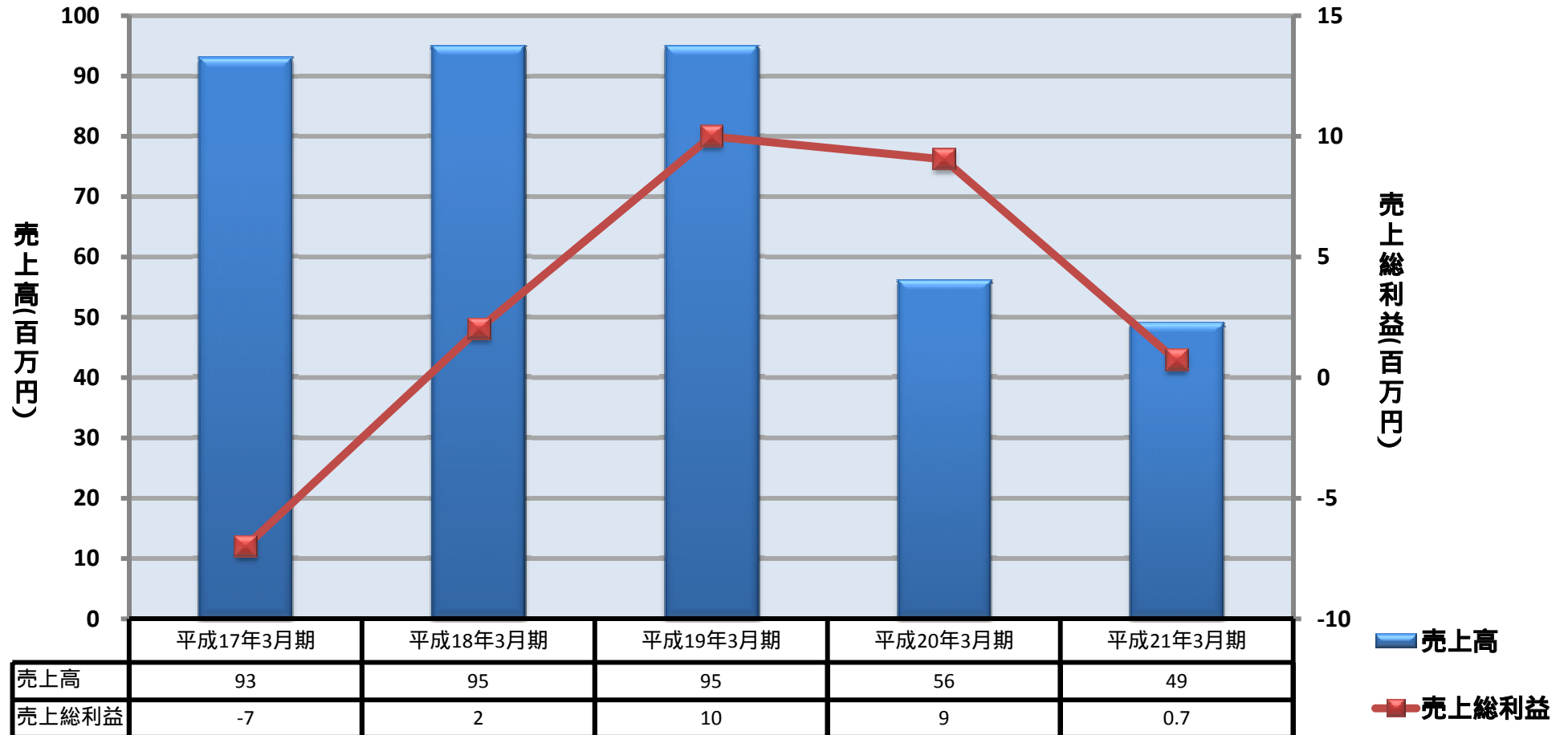
株券電子化等、金融関連の大型案件が一段落し、金融関連の売上が減少しました。

5. 事業別業績推移(入力データ作成事業)



市場規模漸減傾向の中、徹底した生産性向上とコスト削減に努めた結果、売上総利益は増益となりました。

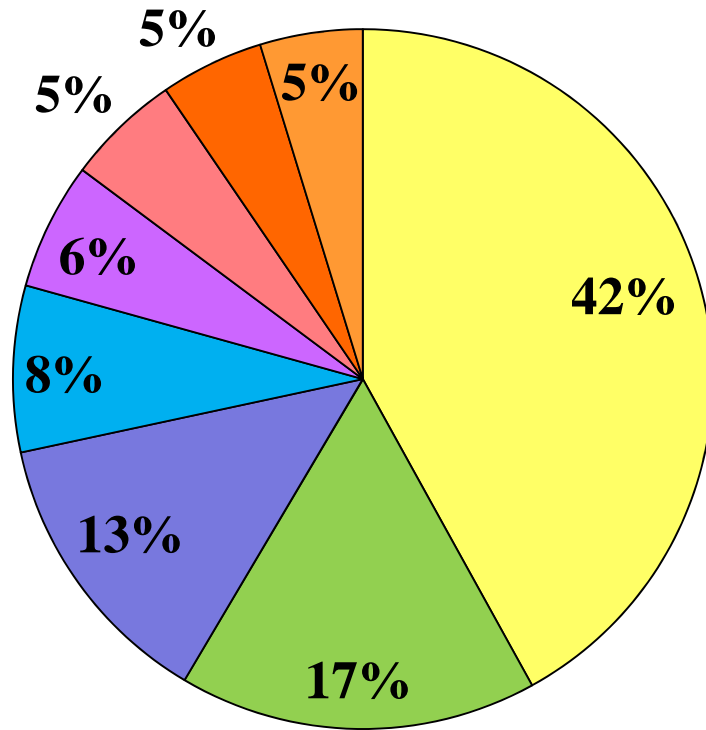
6. 事業別業績推移 (受託計算事業)



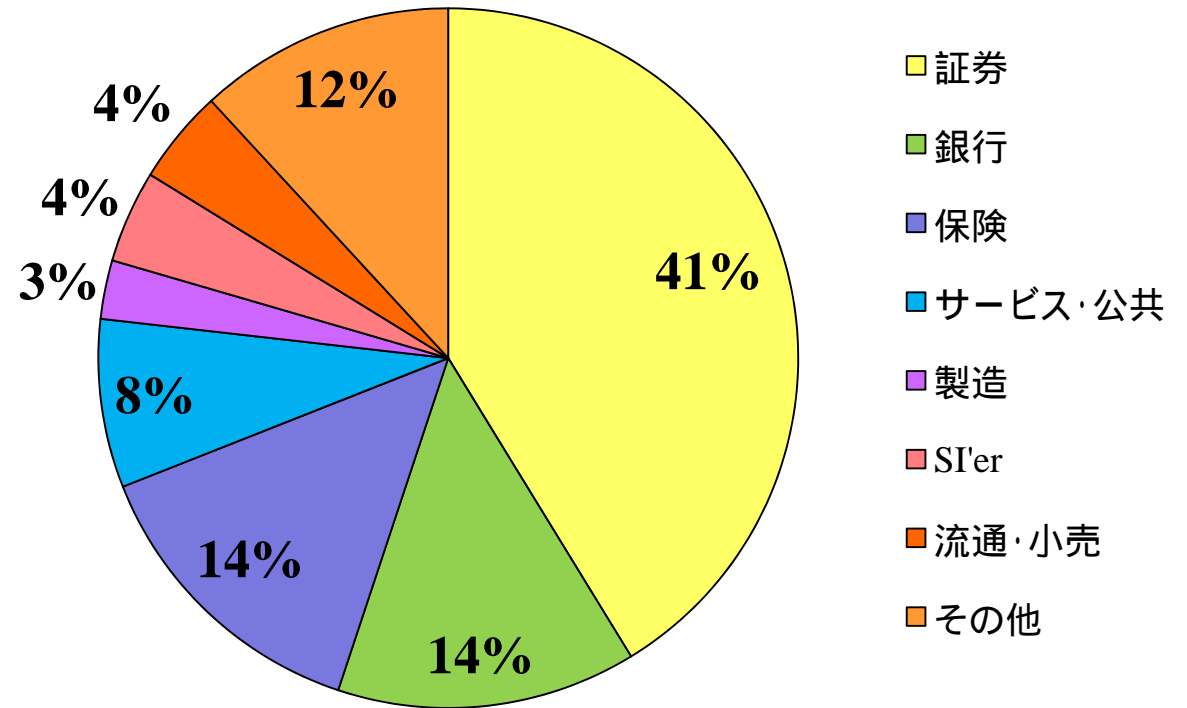
市場規模漸減傾向の中、減収減益ですが、一部顧客からは、ソフトウェア開発案件を受注しました。

7. 業種別売上比率(全社)

平成20年3月期

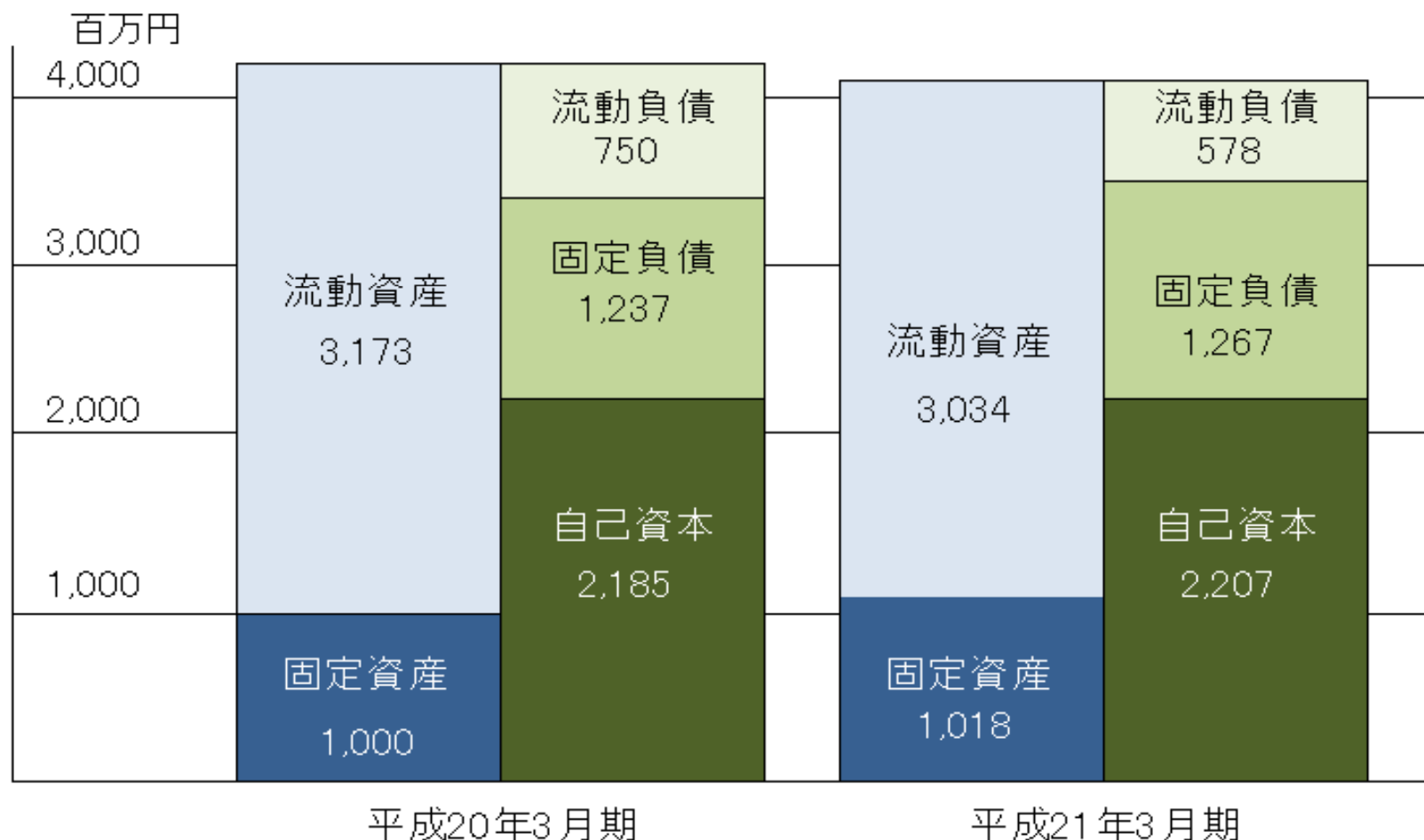


平成21年3月期



株券電子化の終了により、証券、銀行の比率が微減となりました。

8. 貸借対照表



常に自己資本比率50%以上を維持する健全経営を続けております。
流動比率が400%以上あり、安全性も充分です。

9. キャッシュフローの推移

単位:百万円

	平成18年3月期	平成19年3月期	平成20年3月期	平成21年3月期
営業活動によるキャッシュフロー	29	174	550	125
投資活動によるキャッシュフロー	122	610	60	347
財務活動によるキャッシュフロー	49	62	47	57
現金及び現金同等物の増減額	102	848	441	280
現金及び現金同等物の期末残高	2,051	1,202	1,644	1,363

余裕資金の投資活動により、現金及び現金同等物が減少しました。

10. 経営指標の推移

	平成18年3月期	平成19年3月期	平成20年3月期	平成21年3月期
ROE(自己資本利益率)	5.0%	1.1%	7.5%	4.2%
売上高経常利益率	4.7%	4.6%	6.4%	4.9%
自己資本比率	51.5%	54.6%	52.4%	54.5%
流動比率	512.1%	543.5%	422.9%	524.3%
1株当り株主資本(円、銭)	445.88	433.75	454.67	459.21

安定的な収益が維持されており、健全な財務状態を継続しております。

平成22年3月期の見通し

11. 経営環境(平成22年3月期)

わが国経済については、一部に「底を打った」との観測も散見されますが、なお下振れリスクを排除しきれません。

顧客企業のIT投資は、足元の業績を見ながらの慎重なものではありますが、一部には動きが出始めております。

情報サービス産業は、4月も前年同月比マイナス成長で、少なくとも、上期一杯は厳しい状況が続くことが予想されますが、下期以降、不確実な状況下ながら、延伸されていた案件の一部に動きが出てくるものと予測しております。

12. 平成22年3月期の経営方針

戦略テーマ	内容	施策
投資	中長期的視点からの人材開発	技術者のスキルチェンジを加速し、市場価値を向上。
挑戦	サービス価値の「見える化」	提供サービスの価値をお客様に見える形にし、その価値に応じて対価を得るビジネスモデルへの変革。
	新規ビジネスの創出	顧客企業の変革や新規ビジネス開拓の取り組みに際して生まれるITの新しい活用の中から当社の新規ビジネス機会を確実に捉える。
社会的責務	内部統制の定着と効率化	「内部統制システム」の見直し、定着を図り、倫理観・コンプライアンスを強化。

13. 業績見通し

前述の通り、厳しい経営環境が予想される中、前頁に記載しました種々施策を実施してまいります。上期の落ち込みを補うほどには下期の経営環境の回復を期待できず、その結果、通期の売上、利益は以下のように見込んでおります。

単位：百万円

	平成21年3月期		平成22年3月期					
	第2四半期 累計期間 実績	通期実績	第2四半期累計期間			通期		
			見通し	増減	増減率	見通し	増減	増減率
売上高	2,154	4,229	1,800	-354	-16.4%	3,900	-329	-7.8%
経常利益	77	209	-40	-117	-	130	-79	-37.8%
当期純利益	41	91	-20	-61	-	70	-21	-23.1%

* 将来に関する記述等についてのご注意

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

14. 業績推移見通し

